戦旗
号外 2号
京都
'64 10/11
共産主義者同盟 京都府委員会
京都市左京区下鴨宮崎町三八-二九 ☎701-0025

官憲の弾圧、陰謀を粉砕し 10・13全国反戦、10・21国際反戦統一行動を 全力をあげて成功させよう!

はじめに

10、8羽田闘争に対する警察の激しい弾圧は、ついに一人の学生の生命を奪った。二八結果に対し、政府・警察・商業新聞はどの責任を学生の闘争に転化し、猛烈なキャンペーンを開始した。

政府の攻撃は、第1に警備者運転の写真の公開と、殺人事件をでっちあげ、この本格的な捜査の開始。第2に、大学内に於ける自治活動に対する大学当局の規制。第3に、政防法適用の検討として、具体化されてきている。

この新たな事態が政治活動ならびに自治活動に対する攻撃であり、あらゆる大衆組織はこの攻撃を自らのものとして把えなおしに立ち上がらなければならない。そのためには、今回の政府の弾圧と反撃をもたらした羽田闘争についての我々の見解を明らかにしたい。

一、

羽田闘争は佐藤首相が東南アジアを訪問することに対する抗議行動であり、阻止行動である。そしてこの闘いは、国際的な政治闘争の一環である。

佐藤訪ベトナムはいわゆる背景で行なわれているのだろうか。第1に、アメリカ帝国主義の反革命的再侵略がはじまり、特にベトナム戦争に於て戦線が膠着し、日本帝国主義に協力を要請してきていることである。

第2に、日本帝国主義が独自の政治、経済的利害を東南アジアに見いだしていることである。それは同時に中国文化大革命に対する米帝との反革命ブロックを固めることであり、後進国民族の階級闘争に対し敵対することを意味している。

第3に、ベトナム侵略の一段の加担と、65年日韓以降の日本帝国主義の侵略の一つの飛躍を意味していた。しかもこの訪ベトに引き続き、その成果の上に、11月の訪米による「70年安保への準備を開始するものであった。

こうであってみれば、佐藤政府と帝国主義者、官憲は、いわゆる弾圧をしても佐藤訪ベトをなさねばならないのは当然のことである。しかも、社会党・総評、日共はわずかの代表を羽田に送ったのみで、自民党にいたっては、8日にアカハタ祭りをするという犯罪的日和見主義であった。こうして闘争は、全学連と反戦青年委員会の攻撃にゆだねられていたのである。

二、

おそれ労働者、人民の暴力は、敵権力の暴力の反撃である。

羽田を徹底した武装と自衛隊になってたたかいぬいてゆくとき、真に有効な闘争を一即ち、羽田での抗議者達に勝ちとるためには、全学連・反戦青年委員会の自衛隊のカベを打破る事を抜きにしては、何事も語り得ないことは明白であった。

まさに、そうであるからこそアメリカ、南ベトナム、インドネシアの反動どもはショックを感じ、中共、ベトナム、米黒人運動は、大きな共感と連帯をよせているのだ。

三、

我々の現時点の任務は、この10/8闘争が切り開いた同盟を一段、10/13～10/21闘争を通じて拡大することである。

だが、このためにも、現在、官憲によってかけられている、戦う部隊への攻撃を断固として跳ねかえしてゆかねばならない。

弾圧を跳ね返し、10/13～21闘争を成功させ、ベトナム侵略を粉砕し、70年安保へ向けての日本帝国主義の加担と侵略の飛躍に抗していかねばならない。